座間市立入谷小学校　校長室通信　NO.16　　2021.9.21（火）
校長　山﨑　聡子

笑顔いっぱい　かがやく入谷っ子

共感しながらの対話の大切さ

１年生が，書写の時間に，「わたしがすきなものは○○です。△△だからです。」という文を考えて，丁寧に書くという学習をしていました。一人一人，思い思いにノートに考えを書いていました。子供たちに「○○がすきなんだね。」と声をかけると「だってね…」と言って話をしてくれました。子供たちはたくさんの思いをもっています。その思いを受け止めて，素敵なことだねと返していきたいと思います。

> *「寒いね」と話しかければ*
> *「寒いね」と答える人のいる*
> *あたたかさ*
>
> 俵　万智『サラダ記念日』

寒さを相手が感じていることに共感して相手が感じたとおりの言葉を返していく…小さなことではあるけれど，自分の気持ちを理解してくれたという嬉しさ，安心感，受け入れてくれる優しさに触れることで温かな種が心の中に植えられていく…「あなたはそう感じたんだね。」「あなたは，そう思ったんだね。」という共感的な対話を心がけていくことで，子供たちの心の安定に繋がり，子供たちのもつ力がさらに引き出されていくのではないかと思っています。子供たちとの関わりの中で，共感的な対話を心がけていきたいと思います。

「聴す」ということ

「聴す」とは，どう読むかと，先日研修会に参加した際，問われました。私自身，初めて知ったことですが，「ゆるす」と読むとのことでした。「聴」という漢字は，相手の気持ちに寄り添って，相手の感じたことをそのまま共感的に受け止めて真摯に聴く「傾聴」に使われています。

研修会では，「聴く」という行為は，自分とは異なる意見であっても，自分の意見に反発されたとしても相手をあるがままに認めていく，相手の存在自体を受け入れていくことであるからこそ，聴す（ゆるす）と読むと教えていただきました。

これから子供たちは，変化の激しい社会を生きていくと言われています。また，正解のない問いに対して，多くの智恵を集めてよりよいものを創り出していくことが求められると言われています。正解は誰もわからないが故，協働して納得解・最適解を創り出して，進んでいく必要があることはコロナ禍にある今，切実に感じています。

様々な課題に対し，他者と協働する上での基本姿勢である「聴く」という行為の中に，「聴す」という視点を取り入れることの意味を積極的に見出していきたいと思っています。

素敵な姿

落とし物の持ち主を探していると，「私のです。」と言って落とし物を受け取り，その場を離れようとした子がいました。その時に，そばで見ていた友達が，「『ありがとう』って言うんだよ。」と声かけしました。気づいたその子は，笑顔で「ありがとう」という言葉を返しました。大切なことを友達に声かけする姿，友達の話を受け止めて行動に移す姿，素敵な一瞬でした。